

荒川地区

荒川地区の上水道事業は、給水区域を荒川地区全域として昭和41年10月から通水を開始しました。その後、昭和44年に第1次拡張、昭和54年に第2次拡張事業で取水井の改良、配水池の増設を行い、都市化が進んで増加した水需要に対応してきました。

さらに世帯数の増加や生活様式の多様化に伴い、一日最大給水量が伸びたこともあり平成10年に計画給水人口12,400人、計画一日給水量8,400 m^3 とする第3次拡張事業の認可を受けましたが、その後大口需要家である地元企業が経費節減のため自家水道に切り替えたことにより上水道の使用水量が大幅に減少し、拡張工事を実施しないまま現在に至っております。

また、荒川地区の全管路延長の1割程度がまだ石綿セメント管であり漏水事故も多く、現在使用している浄水場及び配水池などの施設についても事業開始当初から第2次拡張事業までに建設した施設であるため老朽化が激しく、これらの早期の更新が大きな課題であります。

〔水源・配水施設〕



左の写真は、昭和41年に建設された荒川地区第1水源の管理棟施設であります。老朽化が激しく今後建て直しが必要な施設です。

右の写真は第2水源で昭和54年に設置した井戸で直径600mm深さ30mであります。



右の写真は荒川地区上水道の配水池です。昭和40年に建設された容量800 m^3 の配水池と昭和54年に建設された容量1,700 m^3 の配水池の2池ありますが、どちらも老朽化が進み耐震化もされていないため、新たな配水池の建設が必要です。

